

令和4年度 学習分析事業 改善計画 三原市立糸崎小学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均	/	48.9	50.9	58.6	49.9	52.5
	本年度結果 偏差値平均	48	52.2	52.7	53.7	47.8	51
算数	前年度結果 偏差値平均	/	47.8	48.5	54.4	48.4	51
	本年度結果 偏差値平均	50.6	51.4	50	53.6	52.3	51.6
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	53.3	51.3	53
	本年度結果 偏差値平均	/	/	50.3	52.7	51.6	51.6
全体	前年度結果 偏差値平均	/	48.3	49.7	55.4	49.9	52
	本年度結果 偏差値平均	49.3	51.8	51	53.3	50.6	51.2

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第6学年対象)

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対県比)	79 (119)	75 (107)	/
本年度結果 (対県比)	66 (98)	63 (98)	67 (101)

2. 調査から明らかになった課題

<p>【年度当初の学力について】(NRTをうけて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●後半部分の無回答率が高い。大問を見て大まかにとらえるのではなく、一問一問丁寧に解き進めたり、分からない問題一問に長時間執着してしまい時間が足りなくなったりしている児童が一定数いる可能性がある。NRTの結果のみでの判断は難しい。 ●国語科では、全学年を通して読むこと、書くことに課題がある。 ●算数科では、全学年を通して測定・データの活用の領域に課題がある。 ●理科は、4・5年生は物質・エネルギー領域(4年生:物と重さ、5年生:電流の働き)、6年生は生命・地球領域(流れる水の働き、天気の変化)に課題が見られた。 	<p>【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)</p> <p><国語></p> <ul style="list-style-type: none"> ●会話文や言葉の意味・意図を感覚的に読み取っており、正確さに欠けている。 <p><算数></p> <ul style="list-style-type: none"> ●表から情報を抽出したり収集・分析したりする力が身に付いていない。(測定・データの活用領域) ●計算の順序性を理解している児童が少ない。(まとめて引いて求める場面ではばらばらに引く等) <p><理科></p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数資料を関連付けて読み取る力が身に付いておらず、ヒント文を読み飛ばして誤答になっている。 <p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章読解力、情報収集・分析能力に課題があり、各教科の問題の正答率が低い。
--	---

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が「必然性のある問いの設定」を意識した授業を実施できるようにするために、校内研修や研究授業を充実させる。</p> <p>○学習内容が深い学びに至っていたかどうかを振り返り、改善に努めるために、全教諭が年間一人二本授業提案と全教諭参加での事後協議を行う。</p>	<p>①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案。(各学年でつきたい力を明確にし、定期的に児童の定着度を把握。定着が不十分な児童にはモジュールを活用して個別指導を行う。)</p> <p>②学校経営会議・校内研修における改善計画の共有。</p> <p>③目指す授業(糸小モデル・深い学び)の在り方を共有するための外部講師を招いた校内研修の実施。</p> <p>④一人一授業の提案。「見る・観る・見せるウィーク」(高学年の授業を低・中学年が1回以上参観して一緒に振り返りを行うことで、糸小版「学び合い」の授業形式を児童も教師も学ぶ。)</p> <p>⑤全国学力・学習状況調査の誤答分析・実態把握。</p> <p>⑥学校経営会議において全国学力・学習状況調査の実態把握を踏まえての改善計画の共有。</p> <p>⑦モジュールでのアシストシート等を活用した学力補充。</p> <p>⑧次年度に向けた全国学力・学習状況調査の対策。</p>	<p>①6月(校内研修)</p> <p>②7月～8月(校内研修)</p> <p>③8月(校内研修)</p> <p>④6月～2月(授業提案)</p> <p>⑤8月(校内研修)</p> <p>⑥8月～10月(校内研修)</p> <p>⑦6月～3月(各学級)</p> <p>⑧2月～3月(学級・5年生)</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値(全学級で全国比以上)</p> <p>・各学期の国語、算数、理科のまとめテスト(80点以上の児童の割合を全学級85%以上)</p> <p>・思考力、回復力を見取る自校作成テスト(国語・算数・理科)</p> <p>※次年度以降も各教員の負担を軽減し持続的に取り組むと同時に、結果の有用性を確保するために、市販教材の思考力に特化したテストを採用することにしています。</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○児童が安心して学校や集団で過ごすことができるようにするために、学習規律や教室環境(整備)を児童とともに考えたり見直ししたりする機会を設ける。</p> <p>○児童自身が学級や学級集団の中に居場所を実感できるようにするために、全学級において当番活動や係活動など一人一人の役割を明確化した取組を行う。</p> <p>○学校全体で回復力の向上に努めるために、回復力向上をねらった学校行事や特別活動等の取組について全教職員で共有・実施する。</p>	<p>①Q-Uの分析における実態把握と改善計画の共有。</p> <p>②学校経営会議における各学級の実態把握と実態を基にした改善計画の共有。</p> <p>③研究授業においてレジリエンス(回復力)が向上することを意識した授業の実施。</p> <p>④休憩時間を利用した学級での全員遊びの毎週確実な実施。</p> <p>⑤校則の見直しに係る話し合いの場の設定。</p>	<p>①6月(校内研修)</p> <p>②6月(学校経営会議)</p> <p>③6月～2月(一人一授業提案)</p> <p>④4月～3月毎週(各学級)</p> <p>⑤9月(各学級)</p>	<p>・2回目のQ-Uにおける一次支援数値向上(全学級で1回以上)</p> <p>・「自分のことアンケート」における肯定的評価85%以上</p>